

ラクト・ジャパン | 3139 |

当PDF文書は上に示されている企業に関する詳細レポートのアップデート版として作成されたものです。
詳細レポート全体につきましては弊社ウェブサイト (<http://www.sharedresearch.jp>) をご覧ください。



2022年10月13日、株式会社ラクト・ジャパンは、2022年11月期第3四半期決算を発表した。

(決算短信へのリンクは[こちら](#)、決算説明補足資料へのリンクは[こちら](#))

業績推移													
		売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	ROA (%)	ROE (%)
FY11/14	連結	96,550	27.1%	1,532	118.8%	1,653	-1.0%	988	-1.9%	127.79	1,165.58	4.5%	12.2%
FY11/15	連結	98,001	1.5%	720	-53.0%	1,343	-18.8%	831	-15.9%	98.94	1,062.54	3.3%	8.5%
FY11/16	連結	88,679	-9.5%	3,349	365.1%	1,434	6.8%	946	13.8%	96.79	1,167.72	3.7%	8.7%
FY11/17	連結	101,335	14.3%	1,924	-42.6%	2,523	75.9%	1,755	85.5%	179.48	1,302.98	6.0%	14.5%
FY11/18	連結	115,441	13.9%	3,009	56.4%	2,613	3.6%	1,784	1.7%	182.31	1,462.35	5.5%	13.2%
FY11/19	連結	116,794	1.2%	3,144	4.5%	2,747	5.1%	1,963	10.0%	200.11	1,618.31	5.7%	13.0%
FY11/20	連結	110,838	-5.1%	2,959	-5.9%	2,781	1.2%	2,062	5.1%	209.47	1,774.58	6.1%	12.3%
FY11/21	連結	110,884	0.0%	2,787	-5.8%	2,682	-3.6%	1,959	-5.0%	198.73	1,978.42	5.6%	0.11
FY11/22	連結会予	140,000	26.3%	-	-	3,100	15.6%	2,250	14.8%	227.94	-	-	-

出所：会社データよりSR社作成

注：百万円未満を四捨五入（会社発表数値は百万円未満切り捨て）

2022年11月期第3四半期（2021年12月～2022年8月）実績

概要

- 売上高：107,486百万円（前年同期比35.0%増）
- 営業利益：2,766百万円（同23.2%増）
- 経常利益：2,725百万円（同23.1%増）
- 親会社株主に帰属する四半期純利益：1,970百万円（同23.1%増）
- 為替レート：1米ドル124.80円（前年同期は107.80円）、1ユーロ134.50円（同129.43円）

2022年11月期第3四半期の連結実績は、売上高107,486百万円（前年同期比35.0%増）、営業利益2,766百万円（同23.2%増）、経常利益2,725百万円（同23.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,970百万円（同23.1%増）となった。

2022年7月5日付で上方修正した2022年11月期通期会社予想に対する進捗率は、売上高76.8%（2021年11月期実績に対する前年同期実績の進捗率71.8%）、経常利益87.9%（同82.5%）、当期純利益87.6%（同81.7%）となった。

事業環境

海外においては、新型コロナウイルス感染症からの回復が続いたものの、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化とそれに伴う冬季のエネルギー問題への懸念、インフレ進行と金融政策変更による景気後退懸念の高まりにより、先行き不透明な状況が一層強まった。

国内では、新型コロナウイルス感染症の第7波により過去最大の感染者数を記録したが、2022年3月以降は行動制限措置が緩和され、経済活動が回復傾向となった。エネルギー価格をはじめとする原材料価格の高騰に加え、急激な円安が進み、国内の企業収益に下押し圧力がかかるなど、景気の先行きは予断を許さない状況にある。

国内の食品業界においては、外食・レジャー産業に客足が戻りつつあり、業務用の食品原料の需要が回復基調となった。乳製品市場においては、夏季に猛暑日が続き、7~8月のアイスクリーム生産量が前年より増加したが、原材料価格の上昇を受けた最終製品の値上げが相次ぎ、消費者の買い控えの動きが顕在化した。一方、乳原料については、北海道を中心に国内の生乳生産量が堅調であったことから、国産の脱脂粉乳在庫は引き続き高水準に留まり、在庫過多の問題は解消されていない。

アジア市場においては、ゼロコロナ政策を採る中国を除き、新型コロナウイルス感染症の影響を抑えながら経済活動の再開が続いており、乳製品を含む食品需要にも順調な回復がみられた。

増収の要因

前述のような事業環境の下、同社は調達ネットワークを最大限に活用して原料の安定調達に努めるとともに、価格優位性のある商品の提案に注力した。また、継続する国産乳製品在庫の問題に対処すべく、アジアのグループ会社との連携による輸出対応なども含め、国産原料の販売にも積極的に取り組んだ。その結果、当第3四半期には食肉食材部門を除くすべての部門において販売数量が増加したことに加え、一段の円安進行による販売価格の上昇もあり、売上高は35.0%増となった。

営業利益は同23.2%増益

売上原価は前年同期比36.1%増加し、売上総利益率は同0.7%ポイント低下して5.6%となったものの、金額では同19.1%増加した。営業利益は金額では23.2%増加、営業利益率は同0.2%ポイント低下して2.6%となった。

経常利益は同23.1%増益

前年同期は123百万円の為替差益を計上したが、当第3四半期は為替差益が180百万円となった。なお、当第3四半期の経常利益には為替のプラス影響が70百万円含まれており、その影響を補正した調整後経常利益は2,654百万円となる。同じベースで補正した前年同期の調整後経常利益2,253百万円と比べて、調整後ベースでは前年同期比17.8%の増益であった。

* 同社では、営業取引において為替リスクを回避するため、外貨仕入額に関して基本的に仕入契約締結時に為替予約を行っている。一方、会計処理における仕入計上は、仕入契約を締結してから一定期間経過した後の船積時に行われる。円高が進行している場合には、仕入計上時に使用する為替レートが予約レートを下回る（円高）ことになる。売上時に認識される売上総利益は、仕入計上レートを使用した売上原価をもとに算出されるため、この時点の売上原価は、円高の影響により仕入契約締結時に定めた原価よりも低くなる。一方、このような場合には、為替ヘッジの効果として、営業外収益に為替差損が計上される。

部門別

乳原料・チーズ部門：売上高72,356百万円（前年同期比31.6%増）・販売数量141,079トン（同4.5%増）

乳原料販売においては、新型コロナウイルス発生後初めて行動制限のない夏休み期間となったことや夏季に猛暑日が続いたことなどから、業務用を中心に需要は回復傾向となり、販売数量も順調に推移した。アイスクリームやチョコレート、飲料向けなどの原料販売が増加した。一方、国際乳製品相場の高止まりと同時に円安が進行したことで輸入乳製品価格が高騰し、国産原料の価格差が縮小したことから、一部の顧客で輸入調製品から国産原料への置き換えが進んだ。また、国内の需給ギャップによる国産脱脂粉乳の在庫は、対策事業の効果は徐々に表れているものの、依然高い水準が続いている。同社は基幹産業である乳原料の輸入販売に加え、国産脱脂粉乳の販売を契機に国内での新規顧客の開拓と取り扱いシェアの拡大に取り組んだ。さらに、アジアのグループ会社との連携により、国産脱脂粉乳の輸出事業にも注力した。

チーズ事業は、業務用需要の回復を受けて好調であった。国際相場の上昇や物流の遅れが続いたが、チーズは脱脂粉乳やバターとは異なり、国産乳製品の余剰在庫の影響が少なく、需要の回復とともに引き合いが増加した。同社はグローバルに展開している調達ネットワークを活用し、タイムリーかつ価格競争力のある原料供給を行ったことで、販売数量・売上ともに伸長した。

食肉食材部門：売上高10,927百万円（前年同期比5.3%増）・販売数量18,224トン（同4.1%減）

食肉食材部門の販売は、国内の外食産業の需要回復に伴い、食肉、加工食品共に販売が堅調であった。主力商品であるチルドポークに加えて、生ハム、サラミなどの販売が回復傾向となった。一方で、ハム・ソーセージなどの原料となる豚肉加工品については、米国のメインサプライヤーにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響による労働者不足が続いている。物量の確保や生産スケジュールの遅れなど、商品の供給力の低下や船積みスケジュールの影響により、販売数量は前年同期を下回った。

アジア事業その他：24,201百万円（前年同期比69.8%増）

当第3四半期にはアジア地域においても行動制限の緩和やインバウンドの受入が再開され、乳製品の需要は回復傾向となった。

乳原料販売部門（商社）：売上高19,405百万円（同74.6%増）・販売数量38,906トン（同12.6%増）

乳原料販売部門の販売は、経済回復が順調なシンガポールやフィリピンを中心に、東南アジア地域の販売は食品・飲料メーカー向けが底堅く推移した。当部門では日本市場の脱脂粉乳在庫削減の対策事業のひとつである脱脂粉乳の輸出事業を、本社乳原料部門と連携して積極的に展開し、東南アジア地域の食品メーカーなどに販売している。国際市況高が続く中で、日本産脱脂粉乳の価格競争力が高まったことから好調に推移し、当部門の販売数量は前年同期比12.6%増加した。また、乳製品の国際相場の上昇を背景に販売単価が上昇したことに加え、円安が進行したことで74.6%の増収となった。

チーズ製造販売部門（メーカー）：売上高2,892百万円（前年同期比19.1%増）・販売数量3,579トン（同6.7%増）

第2四半期（2022年3月～5月）に実施された中国・上海エリアにおけるロックダウンの影響により、一時中国向けの販売が滞っていたが、当第3四半期以降は徐々に販売が再開している。また、東南アジア地域におけるコロナ禍からの経済回復は順調で、シンガポールやマレーシアを中心に販売が好調に推移した。なお、原料となるチーズ価格の上昇に伴い、2022年4月以降に商品の値上げを実施したが、堅調な需要を背景に販売数量は前年同期比6.7%増加した。売上高については、製品の値上げに加えて円安が進行したことにより、19.1%増収となった。

その他の事業として2020年11月期から開始し、新たな成長事業として注力している機能性食品原料販売は順調に進捗した。主要商品である乳由来のホエイプロテイン原料は、スポーツニュートリション業界向けを中心に販売が伸長している。また、感染症拡大防止のための行動制限が緩和されたことから、当期からは日本国内だけでなく、アジア地域も含めた海外市場にも営業活動を開始しており、さらなる拡販に努めている。

四半期(累積)業績動向

四半期累計 (百万円)	20年11月期				21年11月期				22年11月期			22年11月期	
	1Q 連結	1-2Q 連結	1-3Q 連結	1-4Q 連結	1Q 連結	1-2Q 連結	1-3Q 連結	1-4Q 連結	1Q 連結	1-2Q 連結	1-3Q 連結	進捗率	会予
売上高	28,222	57,912	85,065	110,838	23,994	52,648	79,630	110,884	31,755	69,788	107,486	76.8%	140,000
前年同期比	1.2%	0.3%	-2.8%	-5.1%	-15.0%	-9.1%	-6.4%	0.0%	32.3%	32.6%	35.0%		26.3%
乳原料・チーズ部門	20,061	39,927	59,925	78,330	17,090	36,952	54,996	76,481	22,024	47,202	72,356	74.4%	97,200
前年同期比	-5.0%	-6.4%	-7.5%	-8.1%	-14.8%	-7.5%	-8.2%	-2.4%	28.9%	27.7%	31.6%		27.1%
構成比	71.1%	68.9%	70.4%	70.7%	71.2%	70.2%	69.1%	69.0%	69.4%	67.6%	67.3%		
食肉食材部門	2,900	6,107	8,781	11,895	3,116	6,769	10,380	14,278	3,530	7,221	10,927	79.8%	13,700
前年同期比	-1.4%	0.0%	-5.5%	-3.1%	7.4%	10.8%	18.2%	20.0%	13.3%	6.7%	5.3%		-4.0%
構成比	10.3%	10.5%	10.3%	10.7%	13.0%	12.9%	13.0%	12.9%	11.1%	10.3%	10.2%		9.8%
アジア事業(乳原料販売)	4,411	10,138	13,752	17,025	2,829	6,809	11,111	15,754	4,783	12,279	19,405	84.4%	23,000
前年同期比	47.4%	38.8%	24.9%	6.2%	-35.9%	-32.8%	-19.2%	-7.5%	69.1%	80.3%	74.6%		46.0%
構成比	15.6%	17.5%	16.2%	15.4%	11.8%	12.9%	14.0%	14.2%	15.1%	17.6%	18.1%		16.4%
アジア事他(チーズ製造販売)	680	1,352	2,036	2,895	801	1,689	2,428	3,324	935	1,827	2,892	72.3%	4,000
前年同期比	3.3%	5.3%	3.7%	9.2%	17.9%	24.9%	19.3%	14.8%	16.7%	8.2%	19.1%		20.3%
構成比	2.4%	2.3%	2.4%	2.6%	3.3%	3.2%	3.0%	3.0%	2.9%	2.6%	2.7%		2.9%
その他	168	386	570	691	156	428	712	1,044	481	1,258	1,904	90.7%	2,100
前年同期比	-8.7%	11.9%	20.5%	9.7%	-7.1%	10.9%	24.9%	51.1%	208.3%	193.9%	167.4%		101.1%
構成比	0.6%	0.7%	0.7%	0.6%	0.7%	0.8%	0.9%	0.9%	1.5%	1.8%	1.8%		1.5%
<販売数量>													
乳原料・チーズ部門(トン)	49,413	98,294	145,534	191,575	43,141	91,993	135,032	184,358	46,731	96,454	141,079	70.8%	199,200
前年同期比	-0.7%	-1.8%	-4.9%	-6.1%	-12.7%	-6.4%	-7.2%	-3.8%	8.3%	4.8%	4.5%		8.1%
食肉食材部門(トン)	5,220	11,453	16,143	21,925	5,736	12,567	19,013	25,699	6,004	12,096	18,224	73.5%	24,800
前年同期比	4.7%	9.0%	-1.1%	1.8%	9.9%	9.7%	17.8%	17.2%	4.7%	-3.7%	-4.1%		-3.5%
アジア事業(乳原料販売)(トン)	14,676	34,921	48,281	60,159	9,918	22,690	34,546	47,817	11,397	26,549	38,906	73.4%	53,000
前年同期比	29.9%	25.2%	15.7%	0.4%	-32.4%	-35.0%	-28.4%	-20.5%	14.9%	17.0%	12.6%		10.8%
アジア事業(チーズ製造販売)(トン)	1,014	1,983	2,949	4,197	1,120	2,334	3,355	4,635	1,253	2,336	3,579	71.6%	5,000
前年同期比	16.0%	9.9%	7.9%	12.3%	10.5%	17.7%	13.8%	10.4%	11.9%	0.1%	6.7%		7.9%
<単価>													
乳原料・チーズ部門(円/kg)	406	406	412	409	396	402	407	415	471	489	513		
前年同期比	-4.3%	-4.7%	-2.8%	-2.1%	-2.4%	-1.1%	-1.1%	1.5%	19.0%	21.8%	25.9%		
食肉食材部門(円/kg)	556	533	544	543	543	539	546	556	588	597	600		
前年同期比	-5.8%	-8.2%	-4.5%	-4.9%	-2.2%	1.0%	0.4%	2.4%	8.2%	10.8%	9.8%		
アジア事業(乳原料販売)(円/kg)	301	290	285	283	285	300	322	329	420	463	499		
前年同期比	13.5%	10.9%	8.0%	5.8%	-5.1%	3.4%	12.9%	16.4%	47.1%	54.1%	55.1%		
アジア事業(チーズ製造販売)(円/kg)	671	682	690	690	715	724	724	717	746	782	808		
前年同期比	-10.9%	-4.2%	-3.9%	-2.8%	6.6%	6.1%	4.8%	4.0%	4.3%	8.1%	11.7%		
売上原価	26,535	54,505	79,981	104,211	22,316	49,274	74,599	104,243	30,033	65,832	101,492		
前年同期比	0.8%	0.3%	-2.9%	-5.3%	-15.9%	-9.6%	-6.7%	0.0%	34.6%	33.6%	36.1%		
原価率	94.0%	94.1%	94.0%	94.0%	93.0%	93.6%	93.7%	94.0%	94.6%	94.3%	94.4%		
売上総利益	1,686	3,407	5,084	6,626	1,678	3,375	5,032	6,641	1,722	3,956	5,994		
前年同期比	7.6%	1.2%	-1.3%	-2.6%	-0.5%	-1.0%	-1.0%	0.2%	2.6%	17.2%	19.1%		
利益率	6.0%	5.9%	6.0%	6.0%	7.0%	6.4%	6.3%	6.0%	5.4%	5.7%	5.6%		
販管費	922	1,826	2,709	3,667	865	1,844	2,786	3,854	982	2,088	3,228		
前年同期比	10.9%	3.9%	1.8%	0.3%	-6.2%	1.0%	2.9%	5.1%	13.5%	13.2%	15.9%		
売上高販管費率	3.3%	3.2%	3.2%	3.3%	3.6%	3.5%	3.5%	3.5%	3.1%	3.0%	3.0%		
営業利益	764	1,581	2,375	2,959	813	1,530	2,245	2,787	740	1,868	2,766		
前年同期比	3.8%	-1.7%	-4.6%	-5.9%	6.4%	-3.2%	-5.5%	-5.8%	-9.0%	22.0%	23.2%		
利益率	2.7%	2.7%	2.8%	2.7%	3.4%	2.9%	2.8%	2.5%	2.3%	2.7%	2.6%		
為替差損益	15	-39	-21	3	50	0	123	81	7	0	180		
前年同期比	-	-	-	-	224.7%	-	-	2,325.6%	-86.2%	-	45.4%		
売上高比率	0.1%	-0.1%	-0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%		
営業利益+為替差損益	780	1,542	2,354	2,962	863	1,531	2,369	2,868	747	1,868	2,945		
前年同期比	25.7%	8.4%	2.2%	-2.2%	10.7%	-0.8%	0.6%	-3.2%	-13.5%	22.0%	24.3%		
利益率	2.8%	2.7%	2.8%	2.7%	3.6%	2.9%	3.0%	2.6%	2.4%	2.7%	2.7%		
経常利益	753	1,434	2,209	2,781	737	1,412	2,213	2,682	719	1,665	2,725	87.9%	3,100
前年同期比	40.6%	14.5%	5.8%	1.2%	-2.1%	-1.5%	0.2%	-3.6%	-2.5%	17.9%	23.1%		15.6%
利益率	2.7%	2.5%	2.6%	2.5%	3.1%	2.7%	2.8%	2.4%	2.3%	2.4%	2.5%		2.2%
四半期純利益	546	1,040	1,608	2,062	527	1,011	1,601	1,959	524	1,207	1,970	87.6%	2,250
前年同期比	45.3%	17.2%	7.9%	5.1%	-3.4%	-2.8%	-0.4%	-5.0%	-0.6%	19.4%	23.1%		14.8%
利益率	1.9%	1.8%	1.9%	1.9%	2.2%	1.9%	2.0%	1.8%	1.6%	1.7%	1.8%		1.6%
為替レート													
円/米ドル	109.53	108.55	107.97	107.27	104.30	106.65	107.80	108.97	114.65	119.55	124.80		
円/ユーロ	120.87	119.33	120.52	121.40	126.62	128.73	129.43	129.68	129.77	132.11	134.50		

出所：同社データを基にSR社作成

注：百万円未満を四捨五入（会社発表値は百万円未満切り捨て）

四半期業績動向 (3か月)

四半期 (3か月) (百万円)	20年11月期				21年11月期				22年11月期		
	1Q 連結	2Q 連結	3Q 連結	4Q 連結	1Q 連結	2Q 連結	3Q 連結	4Q 連結	1Q 連結	2Q 連結	3Q 連結
売上高	28,222	29,690	27,153	25,773	23,994	28,654	26,982	31,253	31,755	38,033	37,698
前年同期比	1.2%	-0.5%	-9.0%	-11.9%	-15.0%	-3.5%	-0.6%	21.3%	32.3%	32.7%	39.7%
売上原価	26,535	27,969	25,476	24,231	22,316	26,957	25,325	29,644	30,033	35,799	35,659
前年同期比	0.8%	-0.2%	-9.1%	-12.2%	-15.9%	-3.6%	-0.6%	22.3%	34.6%	32.8%	40.8%
原価率	94.0%	94.2%	93.8%	94.0%	93.0%	94.1%	93.9%	94.9%	94.6%	94.1%	94.6%
売上総利益	1,686	1,721	1,677	1,542	1,678	1,697	1,657	1,609	1,722	2,234	2,039
前年同期比	7.6%	-4.3%	-6.0%	-6.6%	-0.5%	-1.4%	-1.2%	4.3%	2.6%	31.6%	23.0%
利益率	6.0%	5.8%	6.2%	6.0%	7.0%	5.9%	6.1%	5.1%	5.4%	5.9%	5.4%
販管費	922	904	883	958	865	979	942	1,067	982	1,106	1,140
前年同期比	10.9%	-2.4%	-2.2%	-3.8%	-6.2%	8.3%	6.7%	11.4%	13.5%	13.0%	21.0%
売上高販管費率	3.3%	3.0%	3.3%	3.7%	3.6%	3.4%	3.5%	3.4%	3.1%	2.9%	3.0%
営業利益	764	817	794	584	813	717	715	542	740	1,127	898
前年同期比	3.8%	-6.3%	-10.0%	-10.8%	6.4%	-12.2%	-9.9%	-7.2%	-9.0%	57.1%	25.7%
利益率	2.7%	2.8%	2.9%	2.3%	3.4%	2.5%	2.6%	1.7%	2.3%	3.0%	2.4%
為替差損益	15.5	-54	18	24	50.3	-50	123	-43	7.0	-7	180
前年同期比	-	-	-	-66.5%	224.7%	-	580.0%	-	-86.2%	-	45.7%
売上高比率	0.1%	-0.2%	0.1%	0.1%	0.2%	-0.2%	0.5%	-0.1%	0.0%	-0.0%	0.5%
営業利益 + 為替差損益	780	762	812	608	863	667	838	499	747	1,120	1,078
前年同期比	25.7%	-5.0%	-7.8%	-16.3%	10.7%	-12.5%	3.3%	-18.0%	-13.5%	67.9%	28.6%
利益率	2.8%	2.6%	3.0%	2.4%	3.6%	2.3%	3.1%	1.6%	2.4%	2.9%	2.9%
経常利益	753	680	775	572	737	675	801	469	719	947	1,060
前年同期比	40.6%	-5.1%	-7.1%	-13.3%	-2.1%	-0.8%	3.3%	-18.1%	-2.5%	40.2%	32.4%
利益率	2.7%	2.3%	2.9%	2.2%	3.1%	2.4%	3.0%	1.5%	2.3%	2.5%	2.8%
当期純利益	546	495	567	455	527	484	590	358	524	684	763
前年同期比	45.3%	-3.4%	-5.9%	-3.9%	-3.4%	-2.2%	4.0%	-21.2%	-0.6%	41.3%	29.3%
利益率	1.9%	1.7%	2.1%	1.8%	2.2%	1.7%	2.2%	1.1%	1.6%	1.8%	2.0%

出所：同社データを基にSR社作成

注：百万円未満を四捨五入（会社発表値は百万円未満切り捨て）

2022年11月期通期会社予想

2022年11月期通期連結業績予想の修正 (2022年7月5日付)

- 売上高：140,000百万円（前年比26.3%増、前回予想126,000百万円）
- 経常利益：3,100百万円（同15.6%増、同2,900百万円）
- 当期純利益：2,250百万円（同14.8%増、同2,100百万円）
- 1株当たり当期純利益：227.94円（前期実績198.73円、同212.95円）
- 1株当たり配当金：37.00円（同32.00円、同37.00円）

2022年11月期上半期の業績に加えて、下期においても乳製品および食肉加工品の国際市況の高止まりや円安の継続を同社は予想し、食品全般においても業務用を中心に需要が回復すると見込み、同社は通期連結業績予想を2022年7月5日付で上方修正した。

当面の事業環境についての同社の見方

- ▶ 乳原料・チーズ部門：国産の脱脂粉乳在庫に関する需給緩和対策が継続されており、同社は在庫削減への貢献も目指し、国産脱脂粉乳の販売に引き続き注力する計画。乳製品の国際相場の高止まりや円安は、対策事業のひとつである輸出事業に対しては追い風であるが、輸入事業においては輸入品と国産品の価格差の縮小により、汎用性の高い輸入乳調製品原料販売では苦戦する、と同社はみている。また、原材料価格の高騰を背景に、10月以降にさらなる値上げが相次ぐ見込みであり、消費者の買い控えによる販売数量への影響を注視する、としている。

- ▶ 食肉食材部門：豚肉・牛肉とも食肉加工工場の供給力低下と、それに伴う国際価格の上昇が懸念材料である。牛肉やはちみつなど、新商品の販売については新規販売先の開拓が順調に進んでいるものの、輸入価格の上昇、円安、商品確保がボトルネックになるという懸念もある。
- ▶ アジア事業（乳原料販売部門）：日本においては、輸入乳調製品から国産脱脂粉乳への置き換えが進むとみている。また、食品値上げによる消費者の買い控え懸念もあり、日本向けの乳調製品用の原料販売については、今後軟調を見込む。日本の脱脂粉乳在庫削減を企図した日本産乳製品の販売（輸出事業）は、第4四半期から来期においても寄与すると同社は見込んでいる。
- ▶ アジア事業（チーズ製造販売部門）：今後も原料チーズやエネルギー価格の上昇継続が見込まれることから、販売先との価格交渉を継続する（一部は価格改定済）。シンガポール、マレーシア、タイにおいて外食を中心とした業務用需要が回復基調にあり、年末に向けて引き続き好調な販売を見込んでいる。

財政状況について

- ▶ 流動資産は前期末より18,821百万円増加し、68,839百万円となった。主な要因は、商品および製品が12,422百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が3,261百万円増加したことによる。
- ▶ 固定資産は前期末より110百万円増加し、2,992百万円となった。これは主に、有形固定資産が225百万円増加したものの、投資その他の資産が108百万円減少したためである。
- ▶ 流動負債の残高は前期末より15,612百万円増加し、43,137百万円となった。運転資金の増加に伴い、短期借入金が増加したこと、買掛金が増加したことが主因。固定負債は主に長期借入金が増加し、前期末より164百万円増加して5,960百万円となった。
- ▶ 純資産は、利益剰余金が増加したこと、為替換算調整勘定が増加したこと、繰延ヘッジ損益が増加したことを主因に、前期末と比べ3,154百万円増の22,733百万円となった。

掲載企業の[詳細レポート](#)もご覧ください。

株式会社シェアードリサーチについて

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

ディスクレームー

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものでもありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。

株式会社シェアードリサーチの役員および従業員、ならびにその関連会社および関係者は、本調査レポートで対象とされている企業の発行する有価証券に関して取引を行っており、または将来行う可能性があります。

金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.

東京都文京区千駄木3-31-12

<http://www.sharedresearch.jp>

TEL : (03)5834-8787 / Email: info@sharedresearch.jp